

医心 伝心

9月21日は 「世界アルツハイマーデー」

富山県医師会理事 林 茂

1994年、国際アルツハイマー病協会は、世界保健機関と共同で、毎年9月21日を「世界アルツハイマーデー」、9月を「世界アルツハイマー月間」と定めました。また、日本では、2024年1月に施行された、共生社会の実現を推進するための認知症基本法において、9月21日を「認知症の日」、9月を「認知症月間」と定めました。9月21日というのは、1994年にスコットランドのエジンバラで開催された、第10回国際アルツハイマー病協会国際会議の初日が9月21日であったことに、由来するものです。アルツハイマー病等に関する認知を高め、世界の患者と家族に援助と希望をもたらす事を目的としています。

認知症のシンボルカラーは、柿色をしたオレンジとなっています。江戸時代に活躍した陶工の酒井柿右衛門が、柿の実の色からインスピレーションを得て作り出した赤絵陶器が海外で高い評価を受けたことから、認知症の理解も、日本から世界に広く知れわたるようという願いが込められています。「世界アルツハイマーデー」にあわせて、9月21日には、全国各地で、オレンジ色のライトアップが予定されており、富山県でも、富岩運河環水公園、富山城で予定されています。

認知症の有病率は、2022年の調査では、65歳以上の高齢者で、認知症12.3%、軽度認知障害15.5%となっています。65歳以上の高齢者は、約3,600万人ですが、その内、約1,000万人が、認知機能に

問題を抱えているということになります。誰もが認知症になり得るという認識のもと、認知症になっても生きがいや希望を持って暮らすことができるよう、認知症バリアフリーの推進、社会参加機会の確保等、認知症基本法に掲げる理念、施策の推進に取り組んでいくことが重要とされています。

認知症の中で、約2/3を占めるアルツハイマー病やアルツハイマー病による軽度認知障害に関しては、2023年12月以降、抗アミロイドβ抗体薬の投与が可能となりました。アルツハイマー病の発症には、アミロイドβタンパクが関与しており、無症状の時期から、アミロイドβタンパクの蓄積が始まり、神経細胞の障害が生じ、認知機能の低下が見られることを考えると早期診断、早期介入の重要性は明らかです。

軽度認知障害の時期に、早期診断、早期介入でできるのが望ましいのですが、短時間の外来診療で、軽度認知障害を疑うことは困難であると思われます。新しい家電の使い方を覚えるのに時間がかかる、前日の昼食、夕食の内容が思い出せない、メモをとることが増えた等、日常生活に支障が生じるほどの大幅な認知機能低下ではない状態の方や物忘れの自覚が強い方は、精査を勧めて頂けると良いと思います。この「世界アルツハイマーデー」を契機に、是非とも認知症の啓発をお願いします。